

# 弥生時代の成果（1）

高吉 B 遺跡では、約 2,000 年前の弥生時代中期後半の集落がみつかりました。<sup>かべんじょう</sup>花弁状を含む 7 軒の竪穴住居と、一箇所にとまとまった 4 棟の掘立柱建物から成ります。早い時点で検出面をとらえることが出来たので、竪穴住居の周りに柱穴が巡ることもわかりました。

鉄器を研ぐための砥石<sup>といし</sup>や磨製石鏃<sup>せきぞく</sup>も出土しています。山ノ口式土器の他、宮崎の中溝式土器<sup>なかみぞ</sup>、福岡の須玖式土器<sup>すく</sup>、四国方面に起源のある疑似凹線<sup>ぎじおうせん</sup>文土器<sup>もん</sup>などがあるので、それぞれの地域との時間的な併行関係をみることができます。

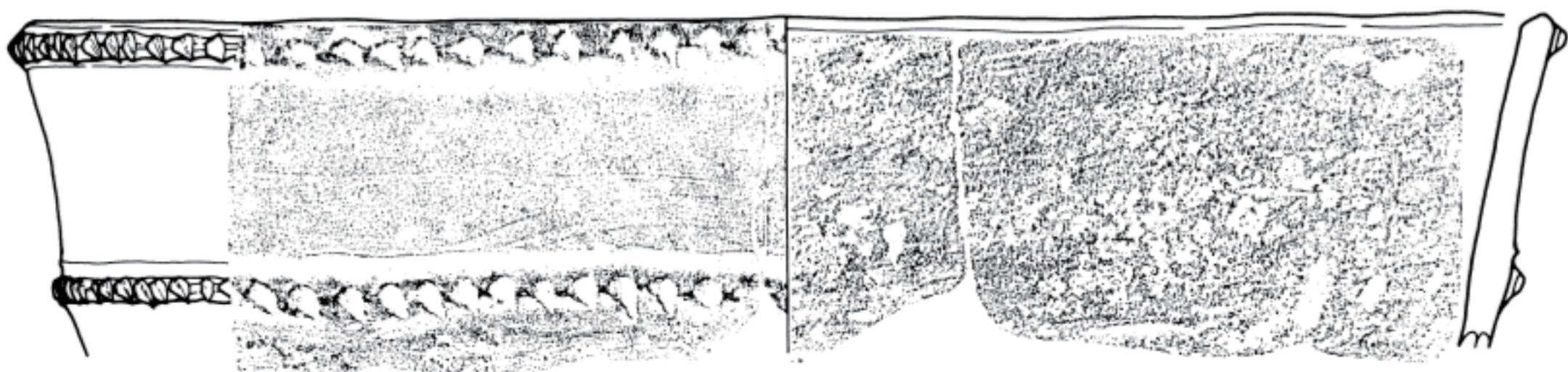


# 弥生時代の成果（2）

高吉 B 遺跡と谷を隔てた稲荷迫遺跡では、弥生時代前期（紀元前 6 世紀）～弥生時代中期前半（紀元前 2 世紀）を主体とする土器や石器が多くみつかりました。弥生時代中期前半の土坑墓には、孔の開いた土器が供えられていました。

これまで早い段階ではないかと考えられていた刻目突帯文土器は、炭素年代と一緒に出土した壺形土器から、弥生時代前期後半（紀元前 4 世紀）まで残ることがわかりました。

北薩に位置する上新田遺跡では、熊本の黒髪式土器も出土していることが報告されました。



きざみめとつたいもん

刻目突帯文土器（稲荷迫遺跡）

